

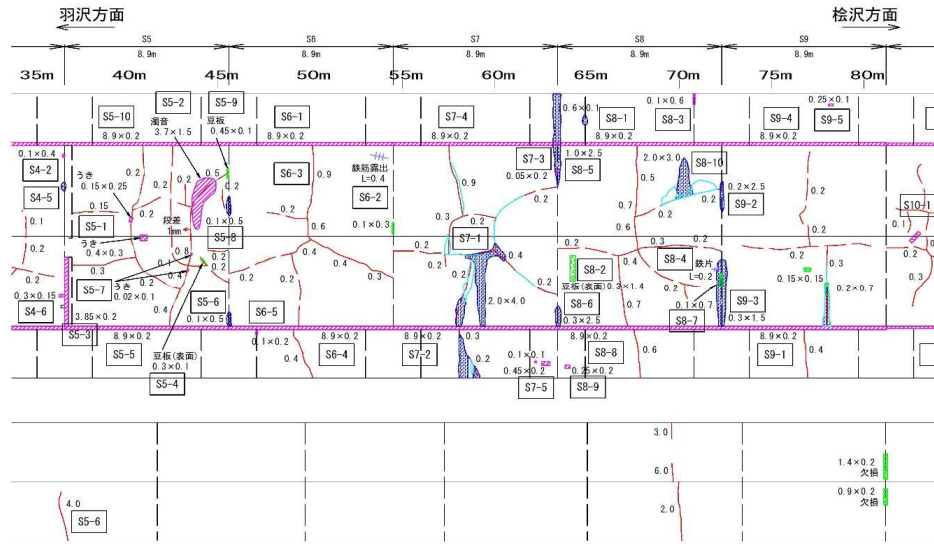


■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

トンネルID	36.12726,138.71988
緊急輸送道路	無
代替路の有無	無
トンネル延長	L= _____ m
トンネルの分類	陸上トンネル(矢板工法)

フリガナ 名称	ヤシキヤマズイドウ		路線名	羽沢検沢線		管理者名	甘楽郡南牧村								
	屋敷山隧道														
所在地	自	群馬県甘楽郡南牧村	定期点検業者	日進工測設計(株)		定期点検年月日	2022年10月27日								
	至	群馬県甘楽郡南牧村	定期点検者名	渡辺敬一											
起点	緯度	36° 07' 38.1"	変状・異常 箇所数合計	トンネル 本土工	材質劣化	II	48 箇所	III	1 箇所	IV	トンネル毎 の健全性	III	附属物の 取付状態	○	(応急措置後)
	経度	138° 43' 11.6"		漏水	II	15 箇所	III		IV						×
終点	緯度	36° 07' 36.4"	外力	II	1 スパン	III		IV							
	経度	138° 43' 14.8"													

トンネル変状・異常箇所写真位置図



【変状図凡例】

表示	点検での変状種類
—	施工目地
〰	ひび割れ (0.3mm) 未満
〰	ひび割れ (0.3mm) 以上 数値はひび割れ開口幅 (mm)
〰	段差 矢印側突出、数値は段差 (mm)
〰	コールドジョイント
	圧ざ
〰	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)
〰	はく離 (はく落跡)
〰	骨材の露出 (豆板部)
〰	漏水 (漏水量 リットル/分)
〰	漏水 (濡れている部分)
〰	容器物 (遊離石灰など)
〰	漏水防止工 (導水工)
〰	変状のある付属施設 (本体の損傷 取付金具の腐食、破損ゆるみなど)
〰	補修跡
〰	鉄筋露出

写真番号の記載例  
 本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】  
 附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

- 注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
- 注2：覆工スパン番号は横断面目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断面目地毎)に設定すること。
- 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
- 注4：横断面目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
- 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

フリガナ		ヤシキヤマズイドウ		路線名	羽沢検沢線		管理者名	甘楽郡南牧村		トンネルID	36.12726,138.71988					
名称		屋敷山隧道								緊急輸送道路	無					
										代替路の有無	無					
所在地		自	群馬県甘楽郡南牧村	定期点検業者	日進工測設計(株)			定期点検年月日	2022年10月27日		トンネル延長	L= _____ m				
		至	群馬県甘楽郡南牧村	定期点検者名	渡辺敬一							トンネルの分類	陸上トンネル(矢板工法)			
起点	緯度	36° 07' 38.1"		変状・異常箇所数合計	トンネル本土工	材質劣化	II	48箇所	III	1箇所	IV	トンネル毎の健全性	III	附属物の取付状態	○ (応急措置後)	
	経度	138° 43' 11.6"				漏水	II	15箇所	III		IV				×	
終点	緯度	36° 07' 36.4"				外力	II	1スパン	III		IV					
	経度	138° 43' 14.8"														

トンネル変状・異常箇所写真位置図

羽沢方面 ←

→ 検沢方面

**【変状図凡例】**

表示	点検での変状種類
—	施工目地
〰	ひび割れ (0.3mm) 未満
〰 5.0	ひび割れ (0.3mm) 以上 数値はひび割れ開口幅 (mm)
〰 2.0	段差 矢印割突出、数値は段差 (mm)
〰	コールドジョイント
	圧ざ
〰	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)
〰	はく落 (はく落跡)
〰	骨材の露出 (豆板部)
〰 (0.5)	漏水 (漏水量 リットル/分)
〰	漏水 (滲れている部分)
〰	容器物 (遊離石灰など)
〰	漏水防止工 (導水工)
〰	変状のある付属施設 (本体の損傷 取付金具の腐食、破損ゆるみなど)
〰	補修跡
〰	鉄筋露出

写真番号の記載例

本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】

附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。

注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。

注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。

注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。

注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

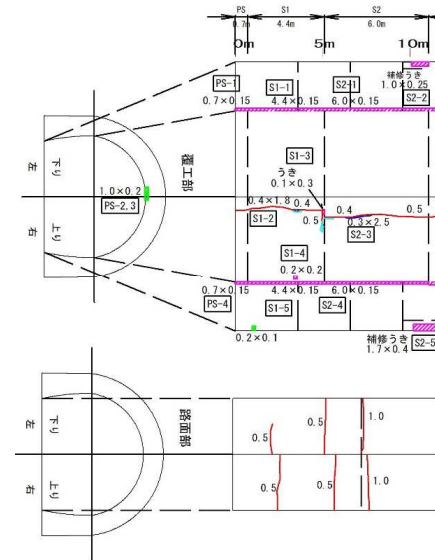
- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

トンネルID	36.14194,138.67100
緊急輸送道路	無
代替路の有無	無
トンネル延長	L= _____ m
トンネルの分類	陸上トンネル(矢板工法)

フリガナ 名称	ダイコクイワズイドウ		路線名	羽沢検沢線		管理者名	南牧村								
	大黒岩隧道														
所在地	自	南牧村	定期点検業者	日進工測設計株式会社		定期点検年月日	2022年10月28日								
	至	南牧村	定期点検者名	渡辺敬一											
起点	緯度	36° 08' 31.0"	変状・異常 箇所数合計	材質劣化	II	48 箇所	III	1 箇所	IV	トンネル毎 の健全性	III	附属物の 取付状態	○	(応急措置後)	1 箇所
	経度	138° 40' 15.6"		漏水	II	7 箇所	III		IV						
終点	緯度	36° 08' 29.6"		外力	II		III		IV						
	経度	138° 40' 14.7"													

トンネル変状・異常箇所写真位置図



【変状図凡例】

表示	点検での変状種類
---	施工目地
〰	ひび割れ (0.3mm) 未満
〰 <sub>5.0</sub>	ひび割れ (0.3mm) 以上 数値はひび割れ開口幅 (mm)
〰 <sub>2.0</sub>	段差 矢印側突出、数値は段差 (mm)
〰	コールドジョイント
	圧ざ
〰	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)
〰	はく落 (はく落跡)
〰	骨材の露出 (豆板部)
〰 <sub>(0.5)</sub>	漏水 (漏水量 リットル/分)
〰	漏水 (濡れている部分)
〰	容脱物 (遊離石灰など)
〰	漏水防止工 (導水工)
〰	変状のある付属施設 (本体の損傷 取付金具の腐食、破損ゆるみなど)
〰	補修跡
〰	鉄筋露出

写真番号の記載例

本体工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】  
 附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

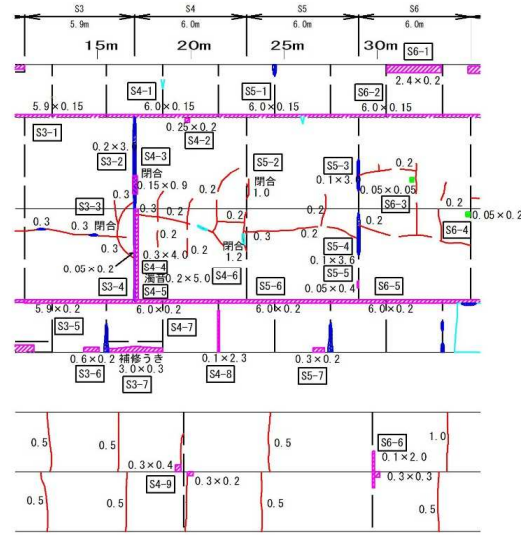
- 注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。  
 注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。  
 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。  
 注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。  
 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

- ※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。  
 ※2 本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。  
 ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。  
 ※4 附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

フリガナ		ダイコクイワズイドウ		路線名		羽沢検沢線		管理者名		南牧村		トンネルID	36.14194,138.67100			
名称		大黒岩隧道		定期点検業者		日進工測設計株式会社		定期点検年月日		2022年10月28日		緊急輸送道路	無			
所在地		自	南牧村	定期点検者名		渡辺敬一		トンネル延長		L=		m				
		至	南牧村	トンネルの分類		陸上トンネル(矢板工法)		トンネル毎の健全性		Ⅲ		附属物の取付状態	○ (応急措置後)	1箇所		
起点	緯度	36° 08' 31.0"		変状・異常箇所数合計	トンネル本体内	材質劣化	Ⅱ	48箇所	Ⅲ	1箇所	Ⅳ	トンネル毎の健全性	Ⅲ	附属物の取付状態	○ (応急措置後)	1箇所
	経度	138° 40' 15.6"				漏水	Ⅱ	7箇所	Ⅲ		Ⅳ					
終点	緯度	36° 08' 29.6"				外力	Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ					
	経度	138° 40' 14.7"														

トンネル変状・異常箇所写真位置図



【変状図凡例】

表示	点検での変状種類
----	施工目地
〰	ひび割れ (0.3mm) 未満
〰	ひび割れ (0.3mm) 以上 数値はひび割れ開口幅 (mm)
〰	段差 矢印側突出、数値は段差 (mm)
〰	コールドジョイント
	圧ぎ
〰	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)
〰	はく落 (はく落跡)
〰	骨材の露出 (豆板部)
〰	漏水 (漏水量 リットル/分)
〰	漏水 (濡れている部分)
〰	容脱物 (遊離石灰など)
〰	漏水防止工 (導水工)
〰	変状のある付属施設 (本体の損傷 取付金具の腐食、破損ゆるみなど)
〰	補修跡
++	鉄筋露出

写真番号の記載例

本体内の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】  
 附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

- 注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
- 注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
- 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
- 注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
- 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

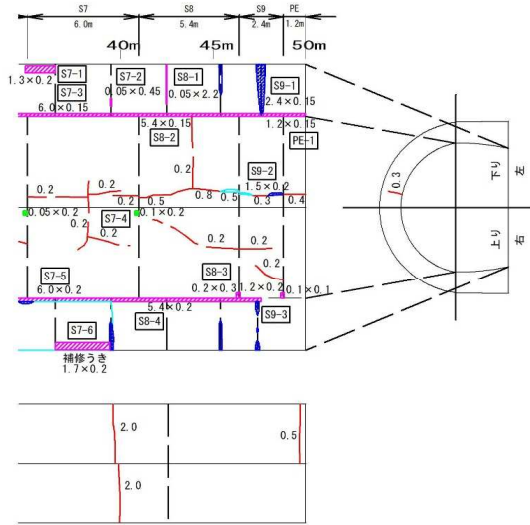
- ※1 トンネル本体内の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本体内の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本体内と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

トンネルID	36.14194,138.67100
緊急輸送道路	無
代替路の有無	無
トンネル延長	L= _____ m
トンネルの分類	陸上トンネル(矢板工法)

フリガナ 名称	ダイコクイワズイドウ		路線名	羽沢検沢線		管理者名	南牧村									
	大黒岩隧道															
所在地	自	南牧村	定期点検業者	日進工測設計株式会社		定期点検年月日	2022年10月28日									
	至	南牧村	定期点検者名	渡辺敬一												
起点	緯度	36° 08' 31.0"	変状・異常 箇所数合計	トンネル 本土工	材質劣化	II	48箇所	III	1箇所	IV	トンネル毎 の健全性	III	附属物の 取付状態	○ (応急措置後)	1箇所	
	経度	138° 40' 15.6"			漏水	II	7箇所	III		IV						
終点	緯度	36° 08' 29.6"			外力	II		III		IV					×	
	経度	138° 40' 14.7"														

トンネル変状・異常箇所写真位置図



【変状図凡例】

表示	点検での変状種類
----	施工目地
〰	ひび割れ (0.3mm) 未満
〰	ひび割れ (0.3mm) 以上 数値はひび割れ開口幅 (mm)
〰	段差 矢印側突出、数値は段差 (mm)
〰	コールドジョイント
	圧ざ
〰	うき、ほく離 (ハンマー打診異常箇所)
〰	はく落 (はく落跡)
〰	骨材の露出 (豆板部)
〰	漏水 (漏水量 リットル/分)
〰	漏水 (濡れている部分)
〰	容脱物 (遊離石灰など)
〰	漏水防止工 (導水工)
〰	変状のある付属施設 (本体の損傷 取付金具の腐食、破損ゆるみなど)
〰	補修跡
〰	鉄筋露出

写真番号の記載例  
 本土工の変状：写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】  
 附属物の異常：写真-【覆工スパン番号】-【異常番号】

- 注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
- 注2：覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
- 注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
- 注4：横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
- 注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

- ※1 トンネル本土工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
- ※2 本土工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
- ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
- ※4 附属物の異常番号は、本土工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。